

クトル様よ。此れは私の主人が進めまゐらせしもので粗末の品で御座います、幸に御受納下さるれば寔に有難き仕合せに存します」といひたり。されば只今のドクトル(即ち眞の小僧)は「寔に有り難し、ごふぞよろしく御禮を申してくれ」といひながら、フキフト氏の机子の上にありし一小銀貨をとり「此れは少しだけれど、御前への賃だ」と云ふて與へたりとなん。

笑ひ草

二人の無筆 東京 は な 子

二人揃つて無筆の友達或町を通つて居ると、道側に「此處車は道并に置くべし」と高札を立て、居る。すると「甲君、此處に書いてるのが讀めるかね?」と「この位なもの、讀めなくつて……」

と云つて一寸首を傾けて見て「ハ、一中々甘く書けるな、手習は坂に車を押す如く油断をすれば後へ下るぞ」かどーだ君「甲「オヤ、えらいね!」君は、百人一首を空に覺えてるじやないか」

弟が下手 三河 近藤とさ子

或所に幼い二人の兄弟がありました。兄さんは温順くつて弟の方が敏捷いから、何でも兄さんより先へ手を出しますので、或日のこと、おっ母さんが弟を叱責つて「お前は何でも兄さんより先になるがそんな権利はない、弟は何時も兄さんより下手になるものです」と誠しめられました。夫から或冬の大變に寒い時でした。兄弟は箱火鉢の側に座つて温まつて居ましたが、お互に手を火の近くへ持つて行かうといふので又々此二人の間に口論が始まりました。で、おっ母さんは「又お始めか

ね、弟が無理云うんでせう」といって側に行らま  
すと、弟は「おっ母さん此間おっ母さんは、何事  
でも弟は下手になるもんだと仰りましたから、私  
は今手を温めるのに、兄さんより下手にならうと  
しますのに、兄さんが聞かないで矢張下手に來る  
んですもの」

### 狐のれ土産

#### 獨醒軒主人

近隣の獵師或る日山に獵に行つて諸所方々を  
かけまわつて居たが藪の蔭から年經た一匹の古狐  
が出てきた獵師は用意の肩の銃をふるしねらいを  
つけ火蓋を切れば過たず狐の横腹を打ち貫いた。  
狐は苦さの餘り瀕りに土手の所を掻きまわしてと  
一と其場に死んでしまつた、獵師は狐を持ち歸る

一とした所が山芋を澤山掘り出してあつた、此れ  
は狐が苦さのあまり掻き出したのであつた、獵師  
は大に喜んで山芋を包む爲めにそこいらの萱を切  
りにいつた所が此にも雉子の卵子が十三ありまし  
たとさめでたし〜

#### 懸賞考へ物當撰ひろ一

- (1) 十八を二分して鳥の名一つ。はと(八、十)
- (2) 六を二分して草の名一つ。いちご(二、五)
- (3) 二十四を二分して家道具の名一つ。ごとく(五  
十、九)
- (4) 千〇十を三分して日本の札所。那智山(七、千  
三)

(1) 私は大變子供に好かれる滋養品で、原籍は外國  
です。頭の數と足の數とを合すと十二になりま